

必要な対立

《高校生・一般の部 金賞》

広島皆実高等学校一年 香川 愛莉

人と人が集ま一つ一つの目的を達成させようとすると、意見の対立が必ず起こります。これはその人たちが本気になればなるほど、回数は増え、一つ一つの議論がヒートアップします。この対立は、当事者からすると、作業をスムーズに思い通りに進めることができないため、とても無駄なことに感じてしまいます。しかし、私は、この対立こそが力を合わせて物事を進める上での醍醐味だと考えます。中学生の頃、部活動で、チーム内で意見が対立したことがあります。原因は練習方法という小さなことでした。一度は目標を諦めようかとなりましたが、これを機にお互いの考えを深く聞くことができ、前より団結を強くすることができました。

この経験から、一つの事について対立が起こった時は、そこで思い通りにならないから、と放棄するのではなく、それをきっかけに、相手のことをもっと深く知ってよりよくしようと考えています。これが、私が家族や友達と力を合わせるときに大切にしていることです。

お互い様の精神を大切に

《高校生・一般の部 銀賞》

広島皆実高等学校三年 佐野 ひなこ

もし困っている人がいたら、次こそは声を掛けようと私は心に決めていました。以前困っている人を見かけ何もできなかったことに後悔していたからです。そして先日道端で動けなくなっていた方に「お手伝いできることはありませんか。」と声を掛けることができました。私が声を掛けてすぐ、通りすがりの男性が私も手伝いますと声を掛けてくださいました。その方は一つ一つ丁寧に私に指示をしてくださり、その方のおかげで動けなくなっていた方を無事に助けることができました。力を合わせるということは、まさにこのことだと思いました。声は掛けられても、私一人では助けることができなかったと思います。一人では成し遂げることができないからこそ、他人の手を借り、力を合わせるのだと思います。力を借った際には、私を成長させてくれてありがとうございますという気持ちを込め、必ず感謝を伝えるようにしています。

困った時には力を借り、困っている人を見かけた時には力を貸す、お互い様の精神を大切にしていきたいです。

生きるために必要なこと

《高校生・一般の部 銅賞》

比治山女子高等学校三年 川上 真歩

約五年前の夏、西日本豪雨で私はつらい・悲しいと簡単に言葉で表すことが出来ない感情でいました。

朝、いつものように起き外の景色を見るとそこは川のように流れる水たまりや、降り続ける雨で言葉が出ませんでした。最寄りの駅はホームまで水が溢れ、テレビをつけてやっと状況を理解することができました。そんな中で、一晩中真剣に集中し一生懸命、災害に巻き込まれた地元の方たちを救助する、自衛隊や消防隊員に目を奪われました。まだ、大雨が降り続けている中での救助活動は、自分自身の命もどうなるかわからないので一人一人が強い気持ちを持って、互いに協力しながら救助しているのだと思いました。

私は、まだ大人になりきれていない子どもです。当時、自分自身が何をすべきなのか分からず、立ち止まっていました。ですが、あと一步で大人になる私は五年前より考えて動くことができます。でも、一人では無理です。家族、友人と一緒に協力してもらうこと。協力することがどれだけ大切か、学びました。

助け合いの関係

《高校生・一般の部 銅賞》

広島皆実高等学校三年 鈴木 歩

私の家では、家族で家事を分担しながら生活しています。母は料理や洗濯、アイロンをかける担当。私は料理や洗濯、掃除担当。弟は皿洗いやご飯を炊いたり、家の中の洗濯物を回収する担当。各自の得意不得意に合った振り分けをすることで、協力しながら家事を行っています。

このようにしっかりと分担されているものの、各々が自分の仕事しかないわけではありません。仕事や休みの母が皿洗いをすることや、私が忙しい時は弟に料理を手伝ってもらうこともあります。力を合わせるということは、ただ個々の能力を足すだけでなく、お互いの負担を分け合うことでもあると思います。

力を合わせることは、年齢や性別、地域を問わず人生の様々な場面で必要になってくるでしょう。そういった時、自分のことだけでなくお互いのことを気かけ、負担を減らして、協力体制が築けるようにしていきたいです。

協力ってあったかい

《高校生・一般の部 入選》

広島大学附属高等学校一年 谷村 咲蕾

毎日のように報道される、ウクライナ侵攻。私はどうして罪のない人たちが傷ついているのだろうかと嘆いているだけだった。そんな時、記者活動をしている中で運よくエマニエル大使に取材することができ、「若い世代でも世界に影響を与えられる」という言葉に心動かされ、生徒会長としてウクライナ支援募金を提案した。生徒会の仲間や先生方は快く賛同し、私が計画案を作り、仲間は生徒会だよりで寄付を呼びかけ、放課後の時間いっぱい募金箱制作に取り組んでくれた。先生方は寄付金を日本赤十字社に送金してくれた。おかげで無事スムーズに募金活動を行うことができた。寄付してくれた生徒の中には、「このお金で少しでもウクライナの人々を助けることができるんだ」と嬉しそうに言う子もいた。「力を合わせて取り組めば、世界にも影響を与えられる」というエマニエル大使の言葉を実感できた。私は将来、国連の職員になって難民に十分な支援が行き届くような活動をしていきたい。

相手の意見に耳を傾ける心

《高校生・一般の部 入選》

広島皆実高等学校二年 郷田 果歩

私は力を合わせるために相手の意見に耳を傾けることを大切にします。つい自分の考えを優先させてしまいがちですが、力を合わせる上で他の意見を受け入れる心を持つことも大切だと思います。

先日学校の文化祭がありました。文化祭の準備では、たくさんアイデアが出る一方でなかなか意見がまとまりませんでした。そこで、実行委員が中心となってグループごとに話し合い、互いの意見の良いところを組み合わせてみました。すると、みんなが理解した上で力を合わせられ、お客さんを楽しませられる最高の出し物を作ることができました。

たくさんさんの意見が出る中で互いの意見が食い違い、対立することもあります。そんな時こそ他の意見に耳を傾け、良いところを取り入れていくことで、全員が自分の役割を理解して協力することができチームワークが生まれるのだと思います。

今後も協力が重要となる場面も多いと思いますが、どのような状況でも相手の考えに耳を傾ける姿勢を大切にしていきたいです。

仲間と起こすムーヴメント

《高校生・一般の部 入選》

広島大学附属高等学校二年 松井 志保里

私は人と協力するとき、フォロワーシップこそ大切だと考える。フォロワーシップとは周囲に働きかけ盛り上げ、そして共に行動しようと促す力である。

私は高校一年の文化祭でクラス代表を務めた。クラス展示の準備が思い通りに進まず、困っていた私を助けてくれる仲間がいた。そして、その仲間の姿を見て活動に参加する人が増えた。ついに文化祭は大成収め、その時にフォロワーの大切さを知った。初めは一人で空回りしたが、経験を通じ先生や友達に力を借り、周囲に協力を求めることがフォロワーを作るチャンスだと分かった。SNSで話題が拡散されるように、協力する人を見た傍観者が新たに参加してくれることが大きなムーヴメントを生んだのだ。

目標達成のために、周りを巻き込みながら継続したムーヴメントを起こせば、どんなに難しい課題であっても達成できると考える。

いま世界が抱える問題も自分の小さな一歩と支える仲間によって大きなうねりを生んでいけば世界を変えることもできるだろう。

力を合わせ目指す看護師へ

《高校生・一般の部 入選》

広島皆実高等学校三年 田中 咲優

私は看護師を目指し、高校の看護科に通っています。看護師には、チームワークがとても大切になります。患者によりよい看護を提供するために、医療ミスをなくすために看護師同士だけでなく、他の医療スタッフや患者、その家族とのチームワークが求められます。

病院実習では患者や指導者との関わり、病院という慣れない環境、多くの記録などさまざまな場面で辛いと感じることがあります。しかし、同じ目標を目指すクラスメイトと力を合わせることで前向きに、実習に臨むことができます。実習で得た学びを共有し、記録物に抜けがないように声をかけ合ったり、励まし支え合い乗り切っています。

今後、より辛く大変に思うことがあると思いますが、そのときは仲間と悩みを分かち合ったり協力して課題に取り組んでいきたいです。そして看護師になるために、誰とでも力を合わせ、発揮することができる能力を学生のうちから身につけていきたいです。

「力を合わせる」ということ。

《高校生・一般の部 入選》

比治山女子高等学校三年 三好 穂果

他人と意見が食い違い、力を合わせるのが難しく感じた時、私は、なぜ相手が自分と異なった意見を主張するのかを考えることが大切だと思っている。人はそれぞれ、性別や宗教、育った環境などが違うため、個人の抱えている問題や信念が違って当たり前だ。だからこそ、時に人は争ってしまうのではないのだろうか。しかし、自分の意見こそが正義だと認識して、他の意見を蔑ろに扱うことはあってはならない。たとえ、自分の意見が多数派であったとしても、それがすべての人に正しいとは限らない。しかし、人は自分と同じ意見を持つ人たちとグループを作り、物事を進めて行きがちなのではないかと思う。確かにその方が効率が良いのかもしれないが、それは本当に力を合わせることだと言えるのだろうか。私は、自分と異なった意見や背景を持った人たちと協調してこそ、力を合わせると言えると考え。そのために、私たちは、自分と異なった意見を持つ人を敵対し、排除するのではなく、まずは相手を理解し、思いやる必要があるのではないのだろうか。

力を合わせて取り組む上で

《高校生・一般の部 入選》

比治山女子高等学校三年 渡邊 紅亜

私は、人と力を合わせて何かに取り組むとき、相手の意見を否定しないことを大切にしています。

人と協力して取り組んでいく上で、どうしても自分と相手の意見が異なる場合があります。そのとき、自分の意見と違うからという理由で相手の意見を否定してしまうと、お互い理解することも受け入れることもできなくなってしまいます。その取り組みをより良くするためにも、一人一人の意見は大切にしていくべきだと思います。意見が違うということは新しい考えを学べる良い機会です。自分と相手の意見を合わせるとより良い案となるなど、その取り組みの質の向上につながる場合もあります。誰か一人の意見をそのまま採用する前に、改善できるところはないか、他の意見と合わせることでより良くなるのではないかと、一度立ち止まって考えることも、他の人の意見を無駄にしない、取り組みの質を上げる上でも大切なことだと思います。